

新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



項目名

● C.ディフィシル抗原毒素検査

(依頼コード No.86194)

受託開始日 2020年2月1日(土) 受付分より

クロストリジオイデス・ディフィシル感染症(C.difficile感染症:CDI)は、抗菌薬や抗がん剤の長期使用などにより腸内細菌叢のバランスが崩れると、C.difficileが異常増殖し、毒素を産生することで発症します。CDIは院内伝播もみられることから、感染対策上、早期診断と適切な早期治療が不可欠となります。CDIを診断する方法として、培養検査、C.difficileの抗原(GDH)及びトキシン(毒素)を検出するイムノクロマト法や毒素の遺伝子検査法(NAAT法)があります。培養検査は日数を要しますが、イムノクロマト法は迅速検査で、短い日数でご報告可能です。しかしながら、GDHは高感度であるものの、トキシンの検出感度は十分ではないため日本化学療法学会・日本感染症学会ではGDHをスクリーニングに用いて二段階で判断する検査アルゴリズムを示しています。

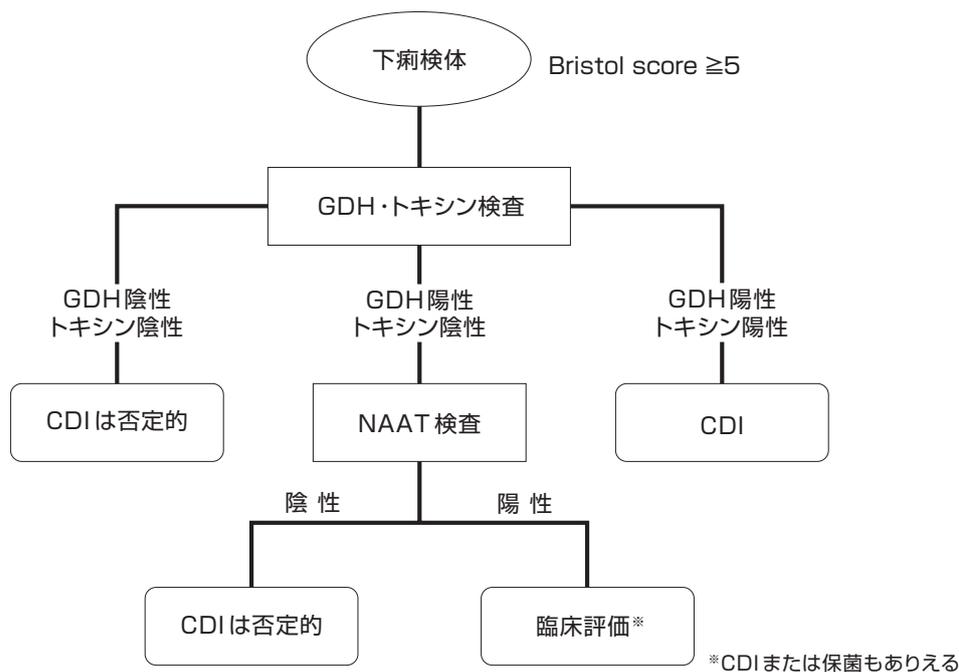
弊社では現行のEIA法によるC.D毒素(依頼コードNo.08606)も、引き続き受託いたします。

裏面に続きます

受託要領

依頼(報告)コード No.	86194(親) ----- (子)86195 CD抗原 (子)86196 CDトキシン
検査項目名	C.ディフィシル抗原毒素
検体必要量	糞便 1g
容器	F-1
検体の保存方法	冷蔵
所要日数	2~5
検査方法	免疫クロマト法
基準値	(-)
単位	なし
報告範囲	C.ディフィシル抗原(GDH) : (-)、(+)、判定保留、判定不能 C.ディフィシル毒素(TOX) : (-)、(+)、判定保留、判定不能
検査実施料/判断料	80点/144点(免疫学的検査)
備考	以下の容器での提出は不可 F-7 : キャリブレア入り便容器 C-3、C-4 : カルチャースワブプラス

ご参考：C.difficile検査のフローチャート



●通常診療におけるC.difficile検査の考え方(フローチャート1)

迅速診断キットでGDH・トキシン検査を行い、その結果に基づいてNAATを組み合わせるアルゴリズムである。一般的にGDHの感度はある程度高いことが知られており、GDH陽性・トキシン陽性はCDI、GDH陰性・トキシン陰性の場合CDIは否定的となる。一方、糞便検体におけるトキシン検査の感度は低いことから、GDH陽性・トキシン陰性の結果では、トキシン産生株と非産生株を区別することはできない。したがって、GDH陽性・トキシン陰性結果の検体を対象として、NAAT法を行うことにより、トキシン産生であれば病態とともにCDIを判断し、トキシン非産生であればCDIは否定的で抗C.difficile薬は不要であり、下痢として他の原因を考慮することとなる。

Clostridioides difficile感染症診療ガイドラインより引用

【参考文献】

日本化学療法学会・日本感染症学会: Clostridioides(Clostridium) difficile感染症診療ガイドライン. 感染症学雑誌 92(6), 819-854, 2018.